

**株式会社三菱ケミカルホールディングス会社説明会
(証券コード：4188)**

**株式会社三菱ケミカルホールディングス
取締役 執行役常務 最高財務責任者
伊達 英文**

 **株式会社三菱ケミカルホールディングス**

本日の内容

1. **三菱ケミカルホールディングスについて**
 - ・ 会社概要
2. **三菱ケミカルホールディングスのこれから**
 - ・ 新経営方針「Forging the future 未来を拓く」

本日の内容

1. **三菱ケミカルホールディングスについて**
 - ・ 会社概要
2. **三菱ケミカルホールディングスのこれから**
 - ・ 新経営方針「Forging the future 未来を拓く」

コーポレートスローガン

KAITEKI Value for Tomorrow

「人、社会、そして地球の心地よさがずっと続いていくこと」
私たちは、これをKAITEKIと名付けました。

未来はどんな姿でしょうか。持続可能な未来のために何をすべきでしょうか。
当社グループは、はるか先の未来を見据えながら、明日を変えるソリューションを
提供していきます。

会社概要

資本金	500 億円
連結売上収益 (2021年3月期実績)	3兆2,575億円
業界内ポジション	国内1位、海外5位

Source: Thomson Reuters (FORTUNE Global 500)による各社直近期 Data(2020年)

連結コア営業利益※ (2021年3月期実績)	1,747 億円
---------------------------	----------

※コア営業利益
IFRSの営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いた経常的な利益

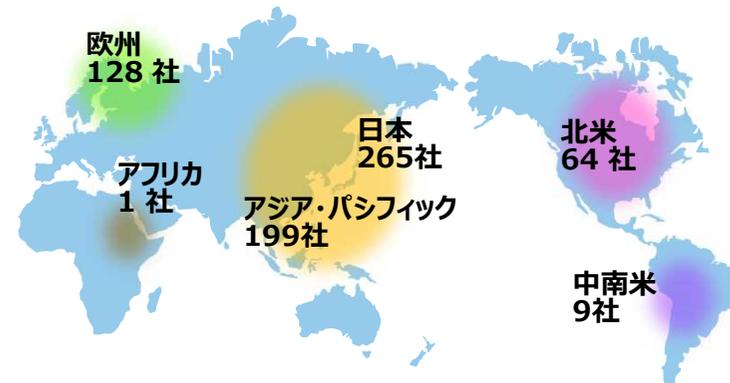
連結従業員数 (2021年3月期実績)	69,607人
関係会社数 (2021年3月期実績)	666社

海外売上高比率：45.0%
(2021年3月期実績)



代表執行役社長
ジョンマーク・ギルソン

グローバルネットワーク

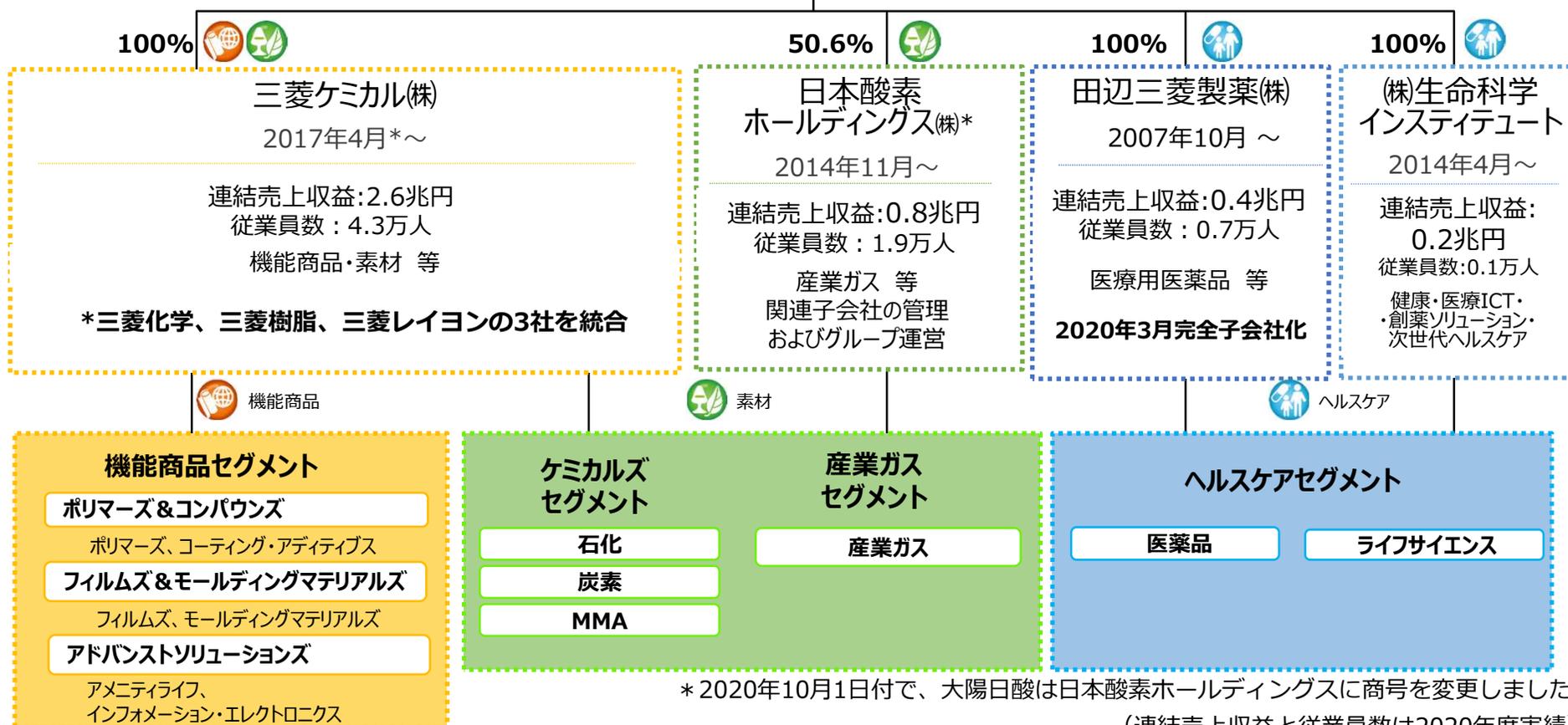


会社概要

(株)三菱ケミカルホールディングス (MCHC)

2005年10月～

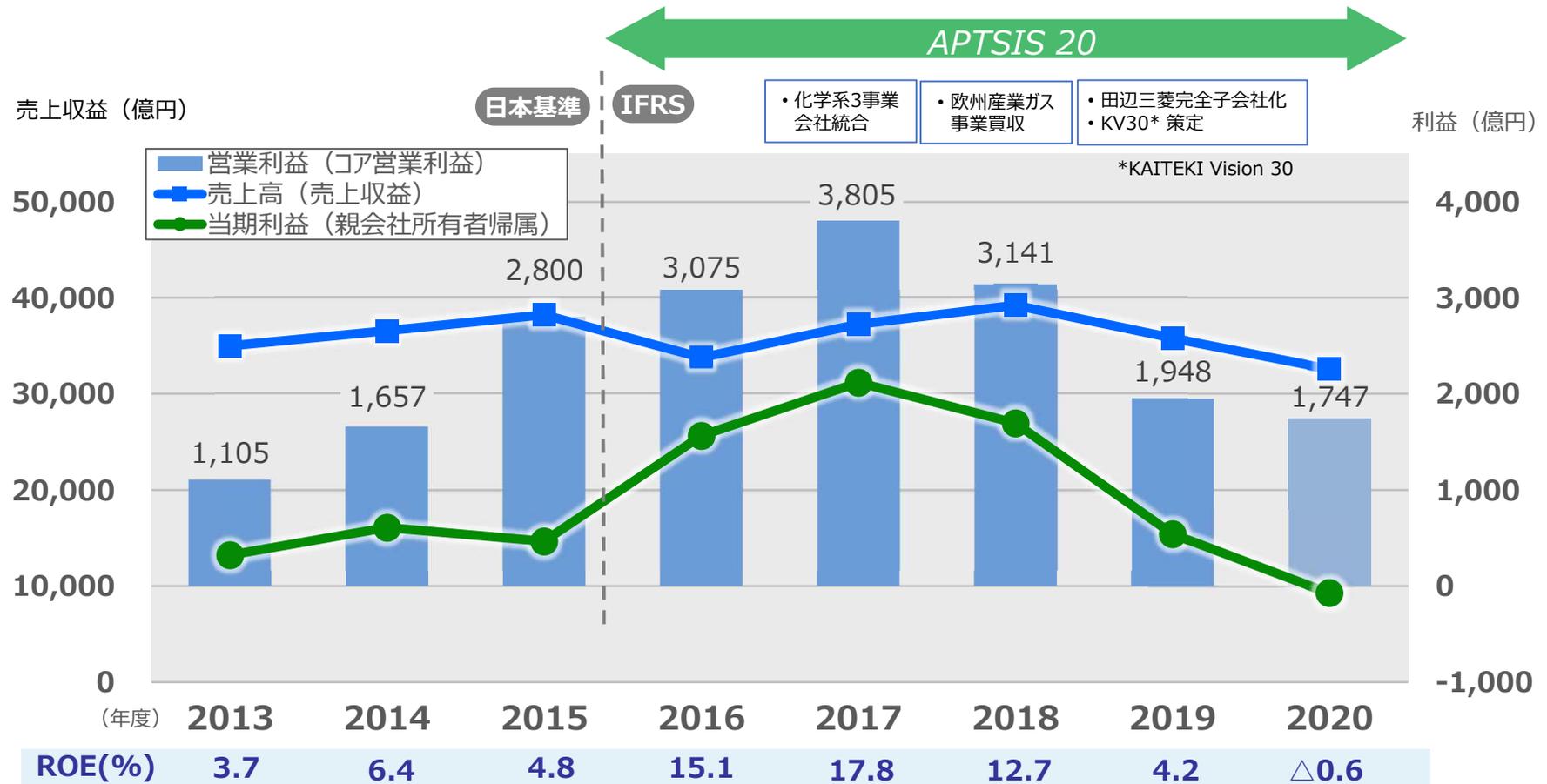
事業分野： 機能商品 素材 ヘルスケア



* 2020年10月1日付で、大陽日酸は日本酸素ホールディングスに商号を変更しました。
(連結売上収益と従業員数は2020年度実績)

前中期経営計画 振り返り

- 2017年度にコア営業利益当初目標3,800億円を達成するも、2018年度以降のロイヤリティ非計上、景気後退、米中貿易摩擦、コロナ影響等により収益悪化
- 2019年度、2020年度はヘルスケア関連の減損計上で当期利益を下押し



*IFRS上(2016年度~)は特別損益の開示区分がないため、減損損失、固定資産売却損、関係会社株式売却損、事業整理損失引当金繰入額、環境対策費、訴訟損失引当金繰入額を簡便的に集計している

2021年度 第3四半期決算と通期予想

・新型コロナウイルス感染症による影響から各国の経済活動に持ち直しの動きがみられる中で、原料価格の上昇等の影響を受けたものの国内外の需要が前年同期と比べ回復基調で推移。

	1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	22/3月期 通期 予想	(参考) 21/3月期 実績
売上収益	9,283	9,568	10,152	38,860	32,575
コア営業利益	887	674	628	3,000	1,747
非経常項目	△17	△13	23	440	△1,272
営業利益 (△損失)	870	661	651	3,440	475
当期利益 (△損失)	592	427	454	2,280	227
親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)	499	353	369	1,920	△76

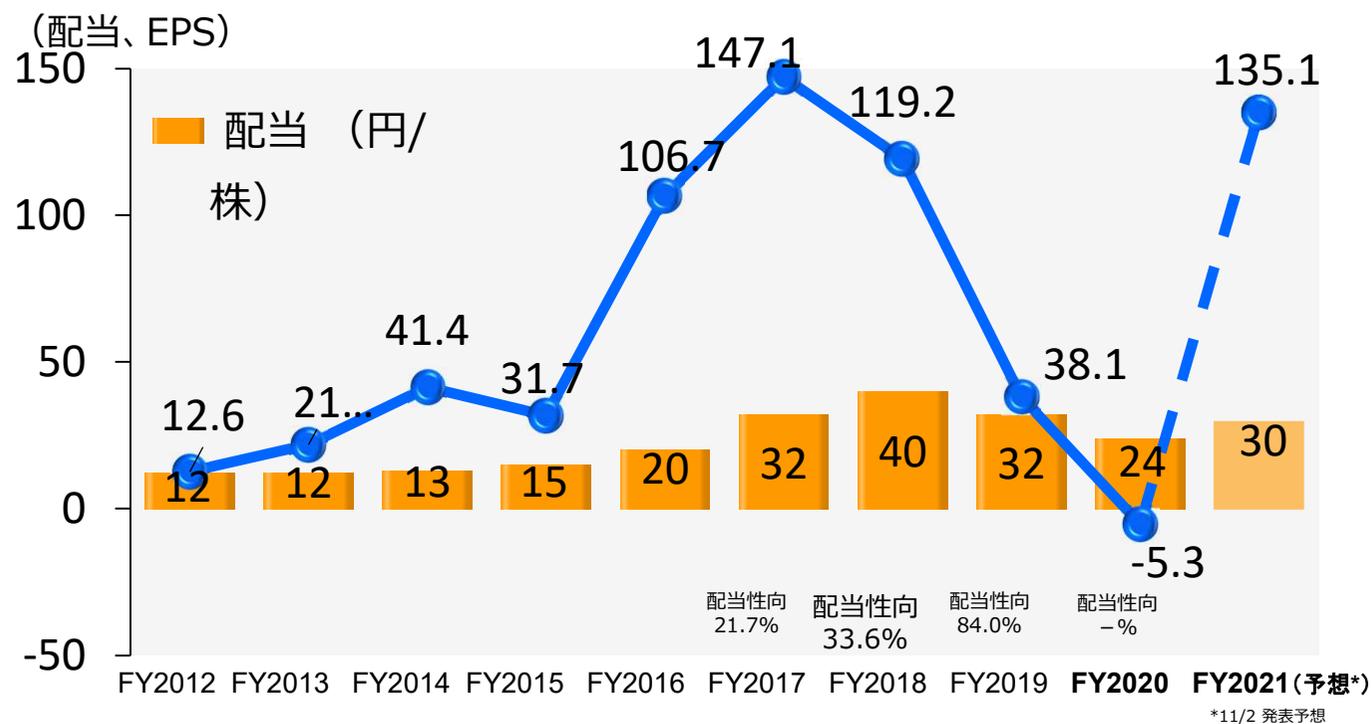
株主還元

基本方針

企業価値の向上を通じ、株主価値の向上をめざす

配当政策については、成長投資・財務体質の改善とのバランスを考慮

- ・中期的な連結配当性向の目安を30%（FY2017-FY2020通算：43%）
- ・安定的な配当を実施



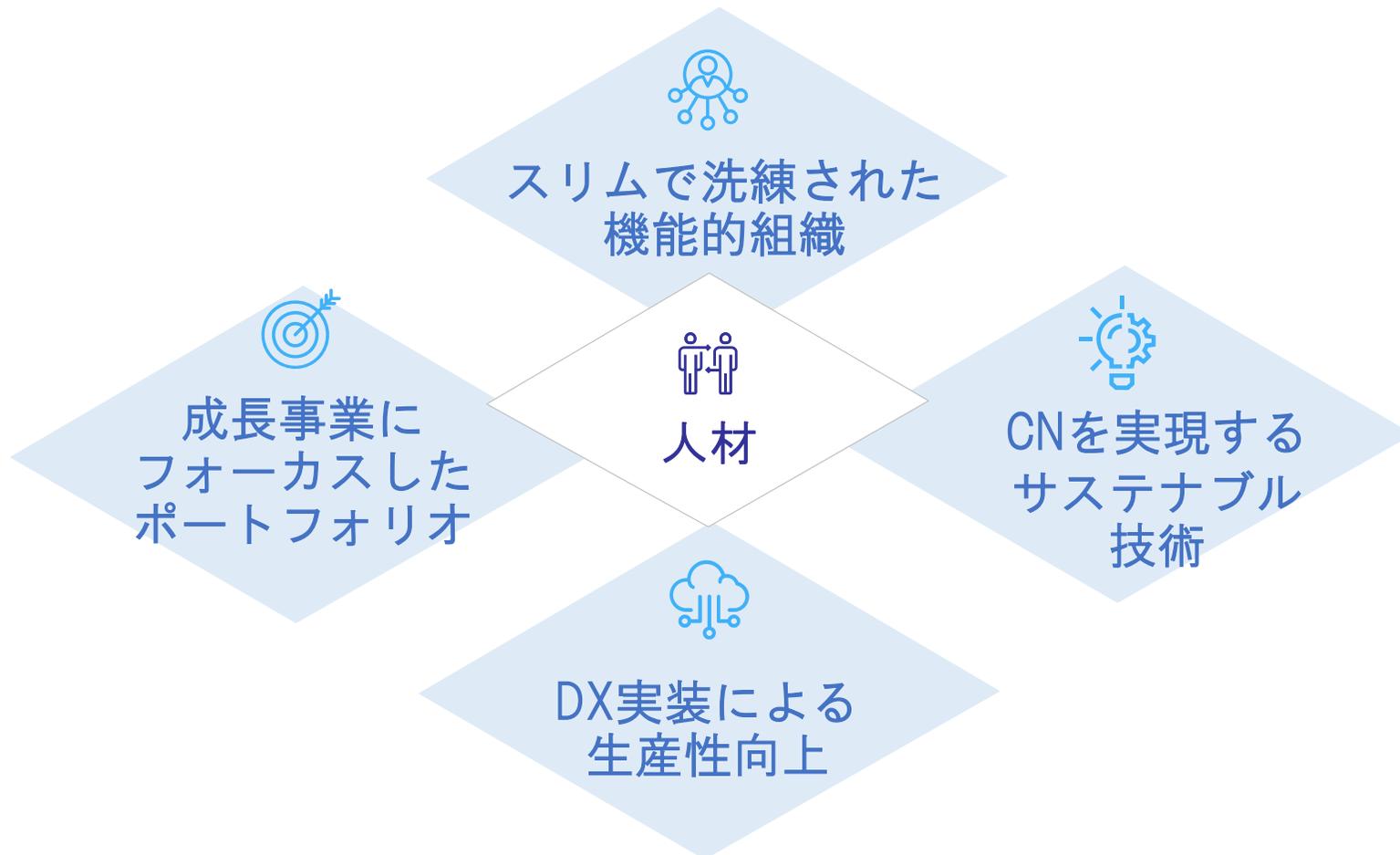
本日の内容

1. 三菱ケミカルホールディングスについて
 - ・ 会社概要
2. 三菱ケミカルホールディングスのこれから
 - ・ 新経営方針「Forging the future 未来を拓く」

Forging the future
未来を拓く

 Mitsubishi Chemical Holdings

未来を拓くためのキーワード



現在の三菱ケミカルホールディングスグループの姿

グループ事業規模

31 ビジネス
ユニット

4セグメント

666 社

グループ企業数
FY2020

69,607 名

グループ従業員数
FY2020

15 百万トン

グループGHG(CO₂)排出量
FY2020

主要財務指標 (2021年度見込)

13.6%

EBITDA マージン

7.7%

コア営業利益率

108 円

EPS(非経常要因除く)

5.4%

ROIC

1.43x

Net Debt / Equity

三菱ケミカルホールディングスグループの目指すべき姿 (2025年度)

グループ事業規模



主要財務指標 (2021年度見込)

13.6% EBITDA マージン	7.7% コア営業利益率	¥108 EPS(非経常要因除く)	5.4% ROIC	1.43x Net Debt / Equity
-----------------------------	------------------------	-----------------------------	---------------------	-----------------------------------

主要財務指標 (2025年度目標)

18~20% EBITDA マージン	11~13% コア営業利益率	¥125~145 EPS(非経常要因除く)	>7% ROIC	0.5~1.0x Net Debt / Equity
------------------------------	--------------------------	---------------------------------	-----------------------	--------------------------------------

効率性を追求した事業運営と事業の成長力を引き出す明確な戦略の下、
全てのステークホルダーにとっての価値の最大化を目指す

経営戦略における最重要ポイント

企業価値最大化に向けた「選択と集中」



1

市場の成長性、競争力、サステナビリティにフォーカスしたポートフォリオ



2

分離・再編し、独立化を進める事業



3

グループ全体におけるコスト構造改革



4

戦略遂行のためのスリムな組織



5

戦略的なキャピタル・アロケーション

ロードマップ

FY2021 - FY2023

Phase 1: 簡素化と合理化

- 洗練されたポートフォリオ
- コスト構造改善
- 組織体制のスリム化
- 有利子負債の削減
- 株主還元強化

Phase 2: 成長に向けた基盤の構築

- 石化・炭素事業及びノンコア機能商品事業のカーブアウトに向けた施策の遂行
- 成長領域への投資加速
- 日本酸素ホールディングス及び田辺三菱製薬の一層の価値向上施策

FY2024 - FY2025

Phase 3: 成長の加速

- 機動的なキャピタルアロケーション
- 2025年以降の成長を視野に入れたM&Aを模索

株主価値を増大させる確固たる戦略の実行

1

市場の成長性、競争力、
サステナビリティに
フォーカスしたポートフォリオ

1. 市場の成長性、競争力、サステナビリティにフォーカスしたポートフォリオ

注力事業の選別基準

市場の魅力度

市場成長性
高収益性を阻む要因・
リスク
ROS / ROIC / EBITDA
マージン

グループの強み

No.1 / No.2 を狙え
る地位
技術革新性
競争優位性・差別化
要因

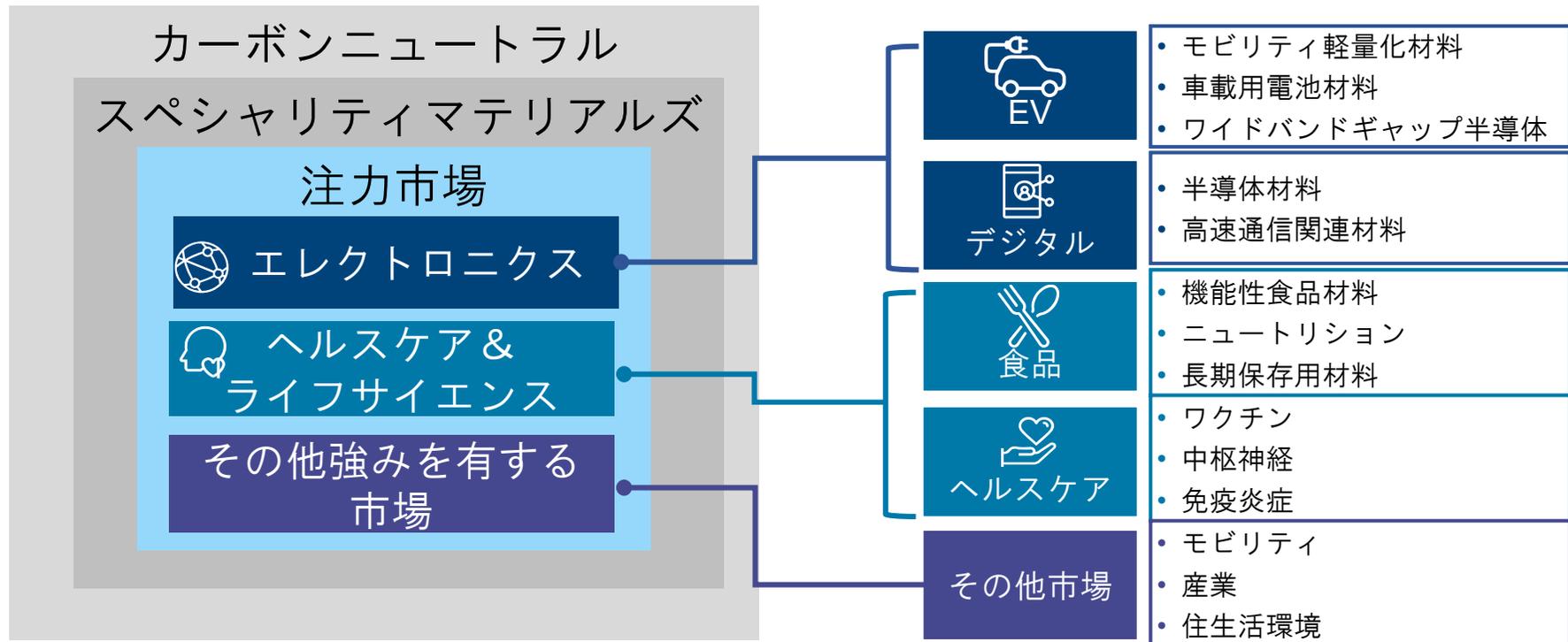
カーボン ニュートラル

CO₂排出水準
CO₂排出の削減余地
顧客／社会に対する付加
価値

当社グループが競争優位性を有する成長市場にフォーカスしたポートフォリオ運営を推進

1. 市場の成長性、競争力、サステナビリティにフォーカスしたポートフォリオ

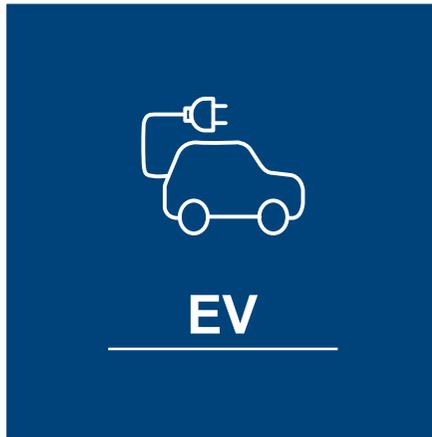
最重要戦略市場



エレクトロニクス及びヘルスケア&ライフサイエンスを最重要戦略市場と位置付ける

1. 市場の成長性、競争力、サステナビリティにフォーカスした ポートフォリオ

エレクトロニクス



主要トレンドにおける成長機会の捕捉

ターゲット領域

- モビリティ軽量化材料
- 車載用電池材料
- ワイドバンドギャップ半導体

コア技術

- CF-SMCを中心とした複合材技術
- 高機能エンブラ複合材技術
- 構造接着剤原料製造技術
- 電解液・負極材の設計技術
- 電池に関わる有機合成技術



エレクトロニクス材料領域における リーディングポジションの更なる強化

ターゲット領域

- 半導体材料
- 高速通信関連材料

コア技術

- 半導体洗浄技術
- 封止剤用エポキシ製造技術
- GaN基板技術
- 半導体ガス製造技術
- 最先端ディスプレイ用材料技術
- 発光材料技術
- 電子材料フィルム技術

1. 市場の成長性、競争力、サステナビリティにフォーカスしたポートフォリオ

ヘルスケア&ライフサイエンス



食品

持続可能な食品供給に向けたイノベーションを牽引

ターゲット領域

- 機能性食品材料
- ニュートリション
- 長期保存用材料

コア技術

- 食品機能材技術
- バイオ関連技術（遺伝子／酵素関連技術）
- 植物工場技術
- 食品に関わるガス供給技術
- 食品冷凍機器技術
- フィルム開発技術



ヘルスケア

開発後期段階プロジェクトの価値実現

北米における主要パイプライン及び上市時期

MT-2766 (新型コロナウイルスワクチン)	FY2021
MT-1186 (ALS/Oral Radicava)	FY2022
MT-7117 (EPP/XLP)	FY2023
ND0612 (パーキンソン病)	FY2024

売上への貢献
> 1,300億円
(FY2025時点)

1. 市場の成長性、競争力、サステナビリティにフォーカスしたポートフォリオ

ポートフォリオ選別のベースとなる強固な機能性素材事業群



ケミカル

MMA

- 世界市場シェア首位(約40%)のMMAモノマーサプライヤーとしての地位
- コスト競争力の源泉である独自の製造技術(アルファ法)

機能性モノマー • 顧客ニーズに合わせた分子設計技術



ポリマー

バイオプラスチック

- サステナブルな食品包装とガラス代替としての最先端バイオプラスチック

EVOH

- 食品包装用の独自技術の高性能ポリマー

機能性樹脂

- 多機能かつ環境対応技術を有する樹脂製品ラインナップ



フィルム

光学フィルム

- 世界市場シェア約20%の光学PETフィルムメーカー

バリアフィルム

- 食品包装および医療製品向けを中心とするバリアフィルムサプライヤー

工業フィルム

- 幅広い産業用途向けの高付加価値製品
- 低環境負荷技術



モールドイング マテリアル

炭素繊維 複合材料

- 世界トップクラスの一貫した炭素繊維・複合材料バリューチェーン

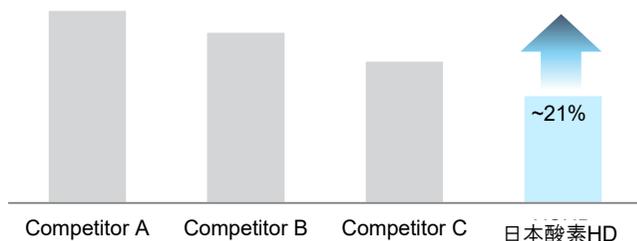
スーパーエンジニアリング・グローバルOEM、産業機械、および航空機メーカーの要請に応える品揃え

1. 市場の成長性、競争力、サステナビリティにフォーカスしたポートフォリオ

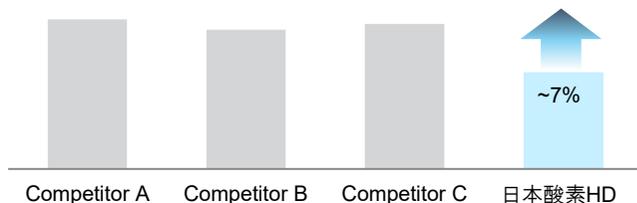
産業ガス

グローバル産業ガス競合との収益性比較

EBITDA マージン (FY2021E)



ROIC (FY2021E)



出所: Capital IQ, IR資料

戦略的イニシアチブ

コスト削減

✓ 欧米でのコスト削減手法の他地域への展開
✓ 日本における収益性の向上

財政規律

✓ 財務健全性の改善
✓ 成長投資、有利子負債削減、株主還元のバランス

グローバル市場での成長

✓ 特に米国市場と欧州市場

新規事業開発／三菱ケミカルホールディングスグループとのシナジーの発現

✓ 半導体材料
✓ 水素
✓ 医療用ガス

カーボンニュートラル

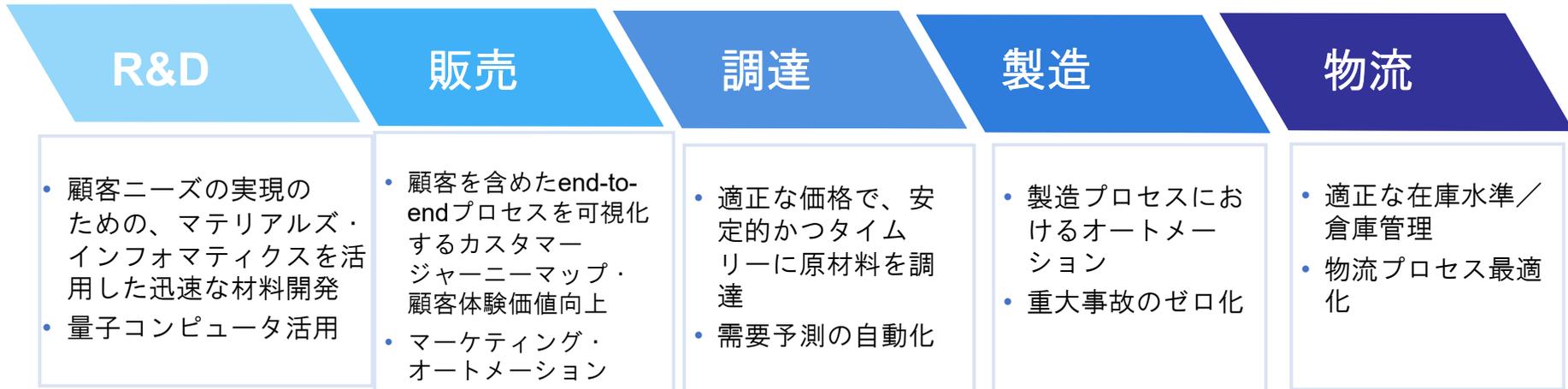
✓ 2030年の削減目標と2050年カーボンニュートラルへのロードマップ

成長機会の獲得、コスト削減、収益性向上への戦略的イニシアチブ

1. 市場の成長性、競争力、サステナビリティにフォーカスしたポートフォリオ

デジタルイノベーション

サプライチェーンにおける主要DXテーマ



主要DXテーマ



- MCHC Connectの導入
- 営業、トレーニング、イントラ、啓発等のワン・ストップポータル



- グローバル・ビジネス・プロセス・カウンセルの導入



- 社内における各領域専門性の共有
- 文書化されていない80%のナレッジの有効活用



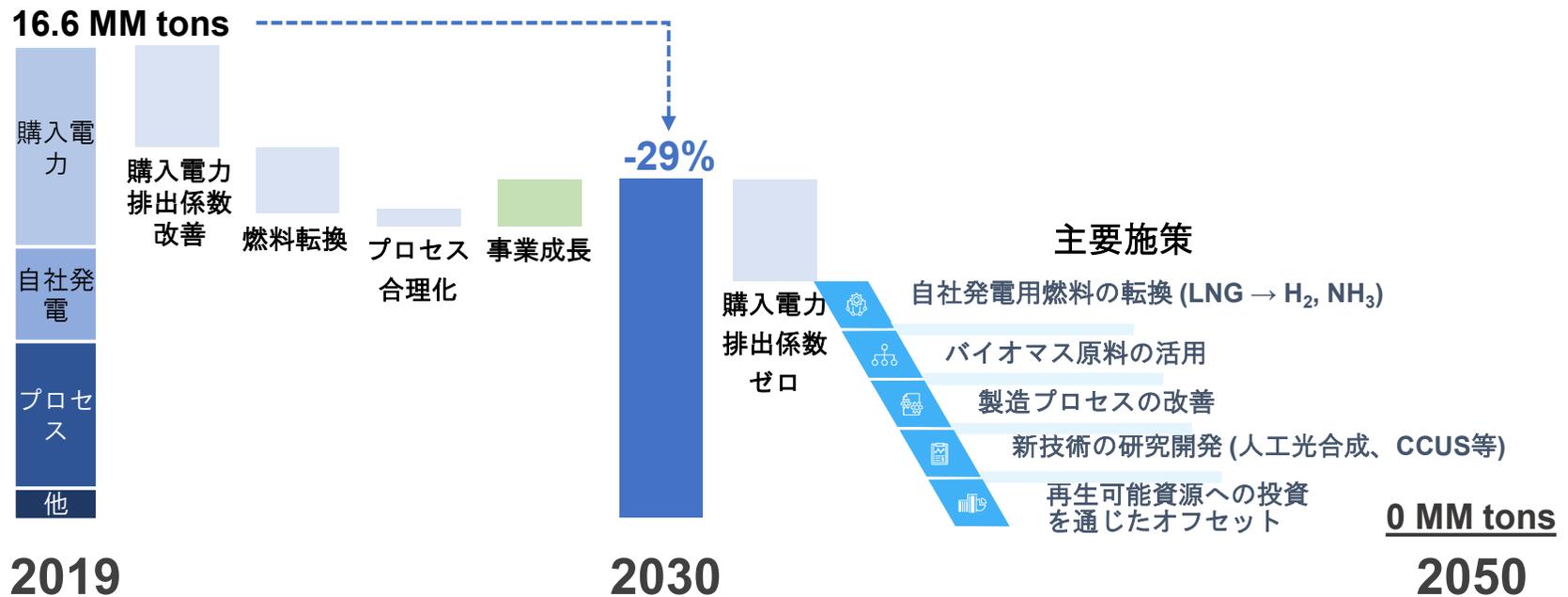
- 新組織体制における評価・報酬システム

デジタル戦略の強化によって、CXとビジネスプロセスのトランスフォーメーションを実現

1. 市場の成長性、競争力、サステナビリティにフォーカスしたポートフォリオ

2050年カーボンニュートラルに向けたロードマップ

当社グループ GHG 排出量



持続的な成長を達成しつつ、着実にカーボンニュートラルを実現

2

分離・再編し、
独立化を進める事業

2. 分離・再編し、独立化を進める事業

石化・炭素事業の将来計画

戦略的合理性

■事業課題

- ✓国内市場の限定的な成長余地
- ✓カーボンニュートラルに向けた基礎化学産業全体としての取り組みの必要性
- ✓CO2排出削減による国内のエネルギーコスト上昇の可能性
- ✓周期的な収益性

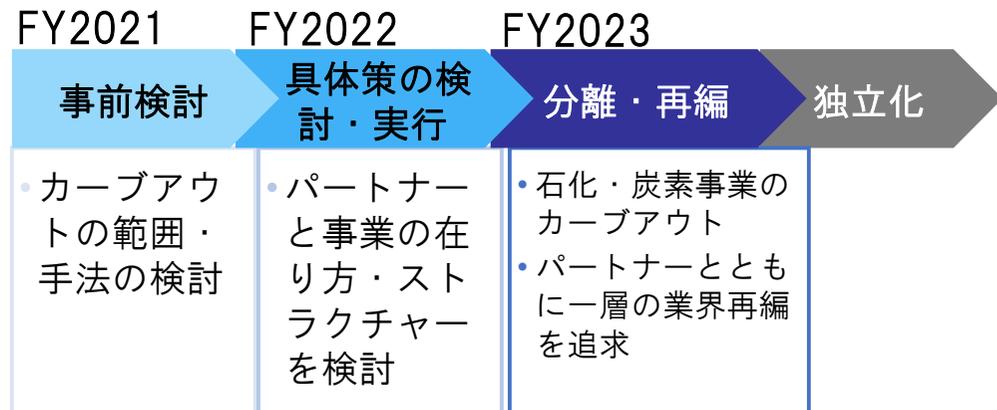
■求められる解決策

- ✓国内基礎化学産業一丸での解決策として、持続的バリューチェーン構築が社会要請となる可能性
 - サステナブルな事業モデル・技術の創出に向けて、経営資源を集約
 - (CO2リサイクル、ケミカルリサイクル、バイオ・ケミカル等)
 - 国家経済安全保障の観点からも基礎化学製品の内製化は必要不可欠
 - 再編・集約化を通じた徹底した事業効率性追求

当社の方針

- ✓ 2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、国内基礎化学産業の再編を主導
- ✓ 分離・再編し、独立化を進める

想定スケジュール



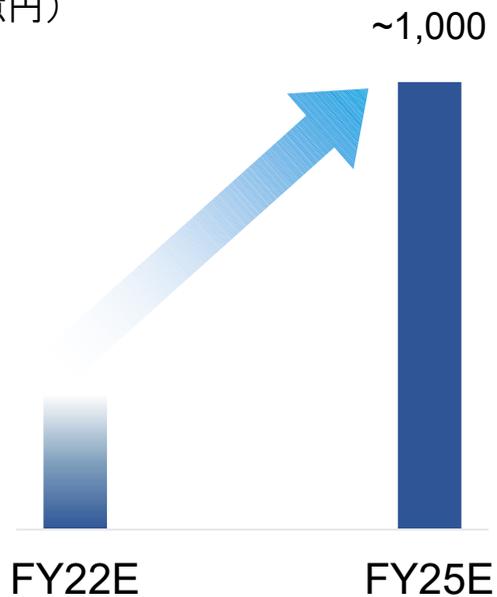
3

グループ全体における コスト構造改革

3. グループ全体におけるコスト構造改革

オペレーショナルエクセレンスと経営効率改善を追求

年間効果金額
(億円)



主要項目	マージンへの影響	主要施策
物流・サプライチェーン改革	++	・製造から販売までの全プロセスを通じたデジタル化による効率化の追求
設備調達・修繕費用	++	・デジタル予防保全を通じて投資を最適化 ・調達プロセス改革とデジタル化
一般管理費	+	・組織体制の再編 - 子会社とのオフィスの統合 - 新たな人事制度の導入 ・業務プロセスの洗練とデジタル化
研究開発費	++	・明確な優先順位付け ・価値創造へのインパクトを最重視 - 田辺三菱製薬でのセレクトティブな研究開発 ・オープンイノベーションとマテリアルズ・インフォマティクス
価格体系の改善	++	・低収益事業の価格体系の改善

グループ全体で1,000億円超のコスト構造改革を実施し、着実な利益成長を実現

4 戦略遂行のための スリムな組織

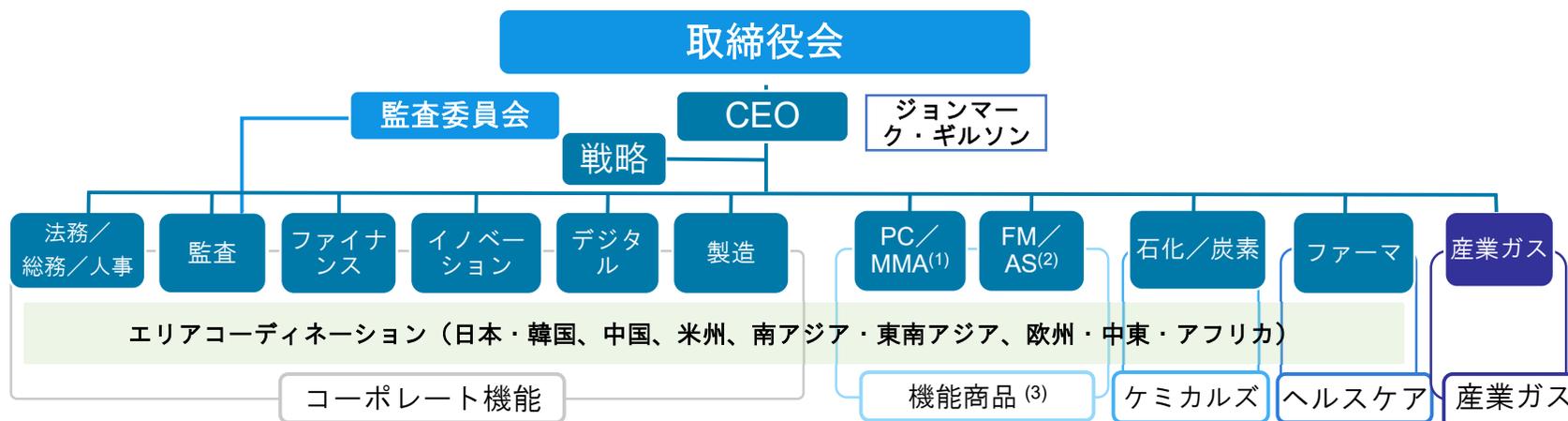
4. 戦略遂行のためのスリムな組織

新組織体制の戦略的意義

“One Company, One Team”
カルチャーを持つフラットな組織

責任の所在の明確化
(リーガル・エンティティベースからBU
及びファンクションベースへ)

2022年4月1日以降の組織体制



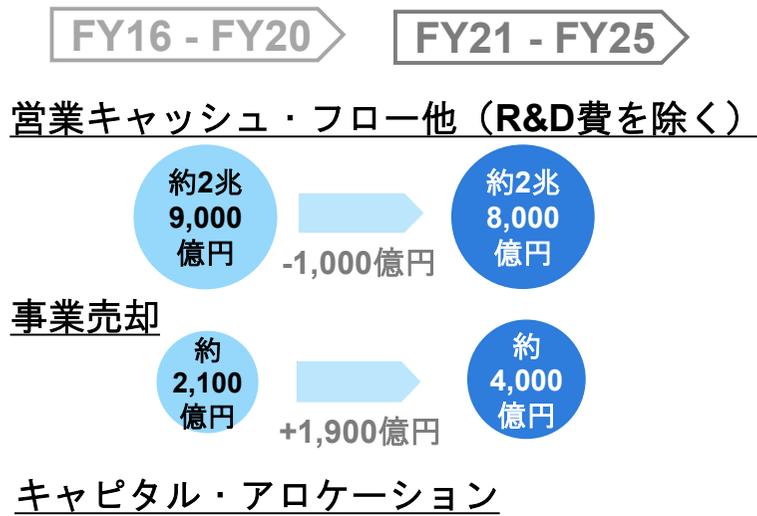
注: (1) ポリマーズ&コンパウンズ/MMA
(2) フィルムズ&モールドディングマテリアルズ/アドバンスソリューションズ
(3) 機能商品は3部門とすることも検討する

5

戦略的な
キャピタル・アロケーション

5. 戦略的なキャピタル・アロケーション

規律ある事業運営とノンコア資産・事業の売却等により得た追加資金を戦略的に再配分



オーガニック投資 (約1兆9,000億円)	<ul style="list-style-type: none"> • 持続的成長に資する投資を加速 • 減価償却の範囲内でのCAPEX • ROIC及びIRR等を基準とした規律ある投資判断 • R&Dは優先順位を明確化 <ul style="list-style-type: none"> - 維持・更新投資 5,800 億円 - 成長投資 7,500 億円 - R&D 5,700 億円
負債削減 (約5,000億円)	<ul style="list-style-type: none"> • コスト削減、利益成長、事業売却によってキャッシュ・フローを拡大し、着実に有利子負債を削減 • 目標レバレッジ水準 <ul style="list-style-type: none"> - Net Debt / EBITDA: 2.0-3.0x Net Debt / Equity: 0.5-1.0x
配当 (約3,000億円)	<ul style="list-style-type: none"> • 配当方針 <ul style="list-style-type: none"> - 現状の配当方針 (長期的な利益水準に対して配当性向30%) について拡充の方向で見直しを検討

利益・キャッシュ・フローの成長、バランスシート改善を優先しつつ、一層の株主価値の最大化施策を実行：

戦略的資本枠 (約5,000億円)	<ul style="list-style-type: none"> • 成長を加速するM&A <ul style="list-style-type: none"> - 投資領域を規律をもって明確化 - 当社がベスト・オーナーであること、WACC以上のROIC、長期的なEPS増加を重視 • 余剰現金は株主に還元 (自己株取得等)
-----------------------------	---

2025年に向けた財務目標

グループ目標

	FY2020 実績	FY2021 見通し	FY2025 目標
売上収益	3兆2,575億円	3兆8,860億円	3兆円
コア営業利益	1,747億円	3,000億円	3,500~3,700億円
EBITDA	4,056億円	5,298億円	5,400~5,600億円
EBITDA マージン	12.5%	13.6%	18~20%
EPS	-5.3円	108.6円	125-145円
財務レバレッジ (Net Debt / EBITDA)	5.3x	3.8x	2.0-3.0x
ROE	-0.6%	11.0%	≥10%
ROIC	3.3%	5.4%	> 7%

収益性と財務健全性の改善を通じて、業績成長を加速するための基盤を構築

主要セグメント別目標

	機能商品	MMA	ヘルスケア	産業ガス (要請ベース)
EBITDA	約1,800億円	約700億円	約700億円	約2,200億円
EBITDA マージン	約15%	約26%	約15%	約25%

ロードマップ

FY2021 - FY2023

FY2024 - FY2025

Phase 1: 簡素化と合理化

Phase 2: 成長に向けた
基盤の構築

Phase 3: 成長の加速

- 洗練されたポートフォリオ
- コスト構造改善
- 組織体制のスリム化
- 有利子負債の削減
- 株主還元強化
- 石化・炭素事業及びノンコア機能商品事業のカーブアウトに向けた施策の遂行
- 成長領域への投資加速
- 日本酸素ホールディングス及び田辺三菱製薬の一層の価値向上施策
- 機動的なキャピタルアロケーション
- 2025年以降の成長を視野に入れたM&Aを模索

EBITDAマージン拡大のロードマップ



株主価値を増大させる確固たる戦略の実行

結び：経営戦略における最重要ポイントと目標

-  **1** 市場の成長性、競争力、サステナビリティに
フォーカスしたポートフォリオ
-  **2** 分離・再編し、独立化を進める事業
-  **3** グループ全体におけるコスト構造改革
-  **4** 戦略遂行のためのスリムな組織
-  **5** 戦略的なキャピタル・アロケーション

主要財務指標（2025年度目標）

18~20%
EBITDA マージン

11~13%
コア営業利益率

125~145円
EPS(非経常要因除く)

> 7%
ROIC

0.5~1.0x
Net Debt / Equity

トピックス) ESG企業評価の維持・向上

- ESG企業評価を通じて、KAITEKI経営の進捗をモニタリング
- DJSI 5年連続World members

<p>Dow Jones Sustainability Indices ・5年連続World members</p> <p>Member of Dow Jones Sustainability Indices Powered by the S&P Global CSA</p>	<p>S&P Global Sustainability Award Bronze Class Sustainability Award Bronze Class 2021</p> <p>S&P Global</p>	<p>KAITEKIレポート（統合報告書）2021への評価</p> <p>・日経統合報告書アワード 2021 準グランプリ受賞</p>	
<p>FTSE Blossom Japan Index</p>  <p>FTSE Blossom Japan</p>	<p>S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数</p>  <p>S&P/JPX カーボン エフィシエント 指数</p>	<p>FTSE4Good Index ・構成銘柄に10年以上連続して選定</p>  <p>FTSE4Good</p>	<p>CDP ・「CDPウォーターセキュリティ2021」の最高評価であるAリストに選定</p>  <p>・Climate Change スコア B</p>  <p>・Water</p>
<p>MSCIジャパンESG セレクト・リーダーズ指数*</p>  <p>2021 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ新版</p>	<p>MSCI 日本株女性活躍指数*</p>  <p>2021 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WEN)</p>	<p>日経スマートワーク経営調査 ・最上位「★★★★★」 (偏差値70以上) にランクイン</p>  <p>★★★★★ 2021 Best 22</p>	<p>日経SDGs経営調査 ・★★★★★ (偏差値60以上65未満) を取得</p>  <p>経営調査 2020 ★★★★★</p>

* 三菱ケミカルホールディングスのMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、トレードマーク、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCIやその関係会社による三菱ケミカルホールディングスの後援、推薦あるいはプロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびその指数の名称とロゴは、MSCIやその関係会社のトレードマークもしくはサービスマークです。

ご清聴ありがとうございました

(ご参考) セグメント内訳

分野： 機能商品 2020年度実績 売上収益：9,945 億円 ：31%（全体に占 める割合）	セグメント … 機能商品	ポリマーズ&コ ンパウンズ	ポリマーズ	機能性樹脂、ソアノール（EVOH）、ゴーセノール（PVOH）、PC、PBT、PET、エポキシ樹脂、BioPBS、デュラビオ（バイオエンブラ）	
			コーティング・アディティブズ	コーティング材料、スペシャリティケミカルズ、添加剤	
		フィルムズ& モールディング マテリアルズ	フィルムズ	食品・飲料包装用フィルム、産業・メディカルフィルム、OPLフィルム（PVOH）、光学用・一般用ポリエステルフィルム	
			モールディングマテリアルズ	高機能エンジニアリングプラスチック、炭素繊維・複合材料、繊維	
		アドバンスツ リユース	アメニティライフ	アクアソリューション、イオン交換樹脂、アグリソリューション、インフラ資材、食品機能材、カプセル・製剤機械等	
			インフォメーション・エレクトロ ニクス	ディスプレイ・半導体関連製品、LiB材料、LEDマテリアルズ等	
素材 17,001億円 ：52%	ケミカルズ	MMA	石化	MMA（原料）PMMA（アクリル樹脂）等	
			炭素	石化原料および誘導品、ポリオレフィン等	
			産業ガス	コークス、カーボンブラック、合成ゴム、炭素材	
		産業ガス	産業ガス、産業ガス関連機器・装置等		
ヘルスケア 3,906億円 ：12%	ヘルス ケア	医療用医薬品	医療用医薬品等		
		ライフサイエンス	健康・医療ICT、創薬ソリューション、次世代ヘルスケア		

(ご参考) イニシアチブへの参画

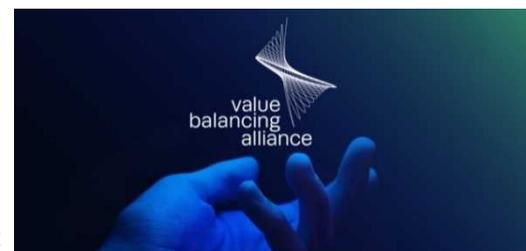
■ イニシアチブや共同研究への積極的参画を通じ、サステナビリティの向上をめざす

新たな企業価値算出手法の開発をめざすイニシアチブ

「Value Balancing Alliance(VBA)」に**日本企業初**の参画

・LCA*の考え方を展開し、企業の社会的影響の金額換算手法を開発

* LCA: Life Cycle Assessment



環境インパクトの低減をめざすイニシアチブ

AEPW



Executive Committee メンバー

JaIME



発起人

CLOMA



技術部会長：
当社代表執行役専務

エレンマッカーサー財団主催
サーキュラー・エコノミー100



日本の化学企業として初参加

一般社団法人
カーボンリサイクルファンド

会長：
当社取締役会長

- WEF* 第4次産業革命日本センターへの参画 (2018年7月)
- 海洋プラスチック問題対応協議会への発起人参画 (2018年9月)
- TCFD**提言への支持表明 (2018年10月)
- 経産省クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンスへの参加表明 (2018年11月)
- 国際的なアライアンス(AEPW***、エレン・マッカーサー財団 CE100)への参加表明(2019年1月)
- Value Balancing Allianceの参画(2019年12月)

*World Economic Forum

**Task Force on Climate-related Financial Disclosures

***Alliance to End Plastic Waste

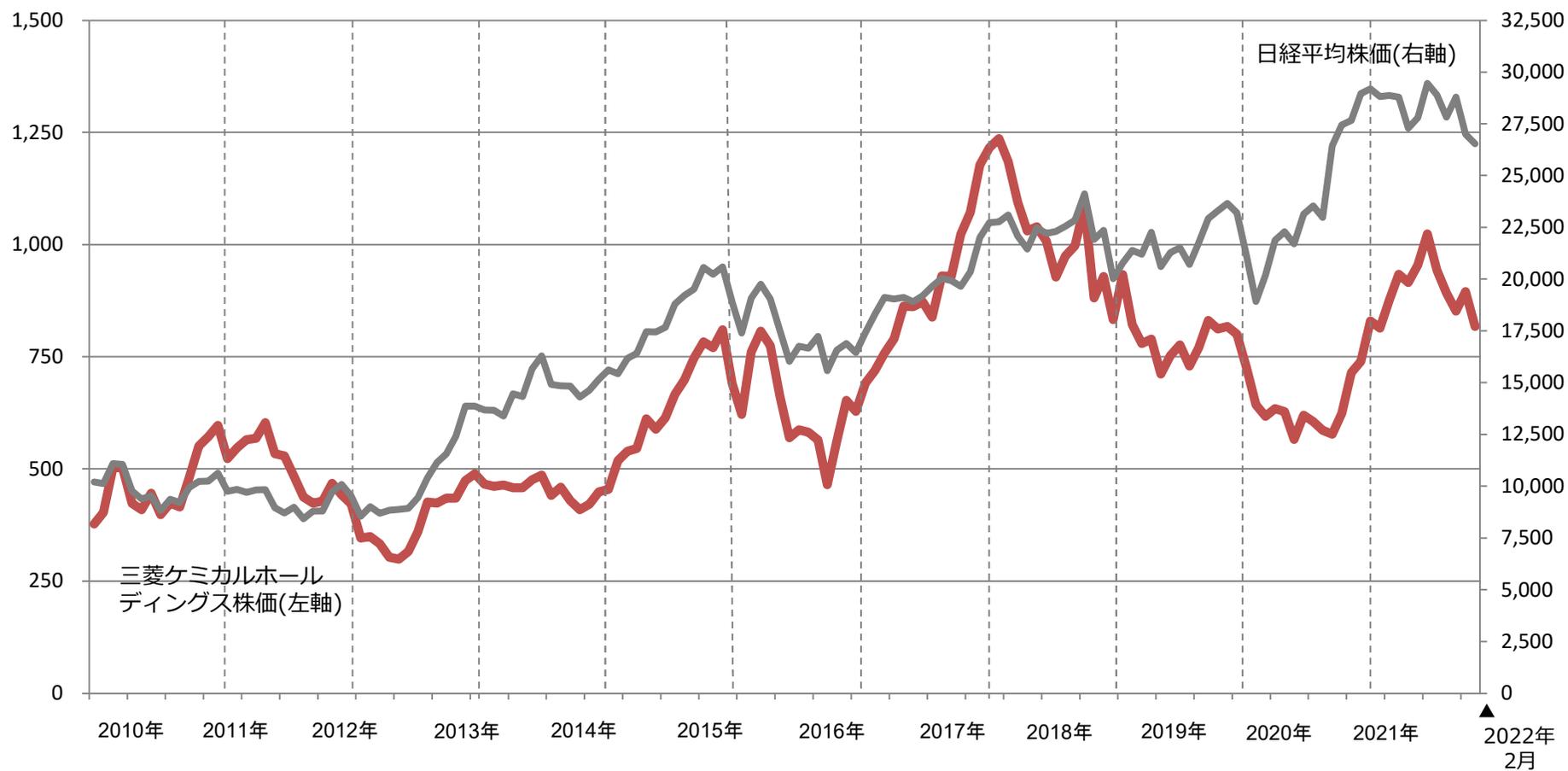
※1 2018年11月時点

※2 (株)三菱ケミカルホールディングスのMSCI指数への組み入れ、およびMSCIのロゴ、トレードマーク、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCIやその関係会社による(株)三菱ケミカルホールディングスの後援、推薦あるいはプロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびその指数の名称とロゴは、MSCIやその関係会社のトレードマークもしくはサービスマークです。

(ご参考) 株式情報 2022年2月末現在

証券コード：4188(東証一部)
単元株式数：100株

株 価



会社資料紹介

三菱ケミカルホールディングスホームページ : <http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>
の「IR・投資家情報」サイトでは、適時開示情報や決算説明資料を含む決算情報等の情報を掲載しております。



The screenshot shows the top navigation bar of the Mitsubishi Chemical Holdings website. It includes the company logo and name on the left, and a menu of links such as 'ニュースリリース', 'お問い合わせ', '採用情報', and language options '日本語', 'English', '中文'. A search box and the slogan 'KAITEKI Value for Tomorrow' are also present. Below the navigation bar, a breadcrumb trail reads 'ホーム / IR情報 / 個人投資家の皆様へ'. The main heading is '個人投資家の皆様へ'. The content area features a paragraph of introductory text, a portrait of the CEO, and his name below it.

三菱ケミカルホールディングス

ニュースリリース お問い合わせ 採用情報 日本語 English 中文 サイト内検索 Q KAITEKI Value for Tomorrow

私たちが考えるKAITEKI サステナビリティ イノベーション IR情報 企業情報

ホーム / IR情報 / 個人投資家の皆様へ

個人投資家の皆様へ

三菱ケミカルホールディングスをより深くご理解いただけるよう、当社グループの概要、業績、今後の戦略を中心に紹介してまいります。

代表執行役社長 ジョンマーク・ギルソン



本説明会および本資料における見通しは、現時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、業績予想と大きく異なる可能性があります。

当社グループは機能商品、ケミカルズ、ヘルスケア、産業ガス等、非常に多岐に亘る事業を行っており、その業績は国内外の需要、為替、ナフサ・原油等の原燃料価格や調達数量、製品市況の動向、技術革新のスピード、薬価改定、製造物責任、訴訟、法規制等によって影響を受ける可能性があります。

但し、業績に影響を及ぼす要素はこれらに限定されるものではありません。